

研究協議会記録

1 自評

- 11 月に中国・四国音楽研究大会があり、3 年生が混声四部合唱を行うことにしている。今回はその事前授業として N コンの課題曲である混声三部合唱「Chessboard」を教材に、授業を展開した。昨年度も混声三部合唱曲を教材として授業を行ったが、感染症対策もあって授業時間が限られ、教師主導の授業となり、生徒主体の授業にはできなかった。昨年度の反省を踏まえ、どのような授業展開をすれば、教師指導の合唱指導ではなく、生徒主体の学び合う授業になるかを考えて実践した。
- 本校はロイロノートの研究校になっている。今回の授業ではロイロノートの共有ノートを使って、同じ箇所を表現を練り合うことにした。グループ合唱は 16 人×2 グループに分け、ロイロノートに入れた伴奏音源を再生しながら各グループで練習できるようにした。

2 質疑応答及び意見

○学習隊形について

- ・片方のグループが歌うと、他の話合いが聞こえない。せっかく建設的で良い意見が出ているので、空間の使い方を工夫し、話合いが聞こえるようにすると良い。
- ・話合いの声が聞こえないので、キーボードの周りに集まって話し合い、歌うのはどうか。発表のときだけひな壇を使うのはどうか。ひな壇の位置をもっと離すのも良いかも。
- ・話合いが聞こえるよう、練習の時は外側を向いて歌うのはどうか。ひな壇は、練習のときだけ、本番の時だけと使用する場面を限定して使い分けるのはどうか。

○教材の提示の仕方について

- ・ロイロノートの共有ノートを使っていたが、生徒の「こう歌いたい」という強い思いがたくさんあり、短い時間で取捨選択をするのは難しいと思った。今日取り組む箇所だけでなく、すべての楽譜と思いを全部載せているのは、意図があったのか。
- 拡大楽譜にするか共有ノートにするか迷った。共有ノートは、多くの意見が出ていても取捨選択でできることから使用した。ユニゾンからのアカペラの入り、前からとの差を表現したいと生徒から出ると予想していた。生徒の意見を取り入れた課題設定をしたいと考えている。
- ・画面に情報が多いので、意見を削いですっきり見える方が良い。

○ピアノ伴奏について

- ・ピアノ伴奏は必要だろうか？アカペラで十分良い響きがある。伴奏なしで、ハーモニーだけの方が、生徒が作りたい音楽を作れるのではないだろうか。

○歌詞と音楽との関わりについて

- 言葉を考えたら、音楽は変わる。国語科の授業で 3 時間をかけて、この曲に多く使われている比喻の意味についてなどもふれながら、歌詞の読取を行った。「遠い空の下」も、国語で歌詞を読み取る予定である。

○感受したことと知覚したこととを関連させるにはどうすればよいか。

- ・技能面は、教えてもなかなかできない。教師は、生徒が自分自身で技能（歌い方）をつかみ取る支援が必要である。発声法、呼吸法等、ロイロノートを活用してできないだろうか。資料箱にコーラス部の

歌声，補助動作の仕方などヒントカードを入れておき，生徒自身がいつでも練習できるようにするとよいと考えた。共有できたら他の学校でも使える。思いだけではなく，技能的な質問が出て来るかもしれない。

○思いを表現するための技能を，身に付けるにはどうすればよいか。

・音楽は思いを歌に乗せて，声で表現するもの。気持ちが変われば音楽が変わる。他にも，自分の声を録音したり，ヒントノートを使ったり，ロイロノートやタブレットが活用できる。画面上の書き込みは多いが，いろんな意見があることは生徒も一目見て分かったと思う。黒板ではできないので，ICTの活用が効果的な例であると思う。

3 指導助言（愛媛大学教育学部 福富彩子 教授）

学習者が主体的に学び合うために，授業者の意識改革が必要である。他者との関わりは重要であるが，かつ，一人ひとりの気付きから深まる。何かを行うときに，意識的に取り組んでいるか？課題意識を持つと，気付きが生まれやすい。

言葉のやわらかさや受取り方は，生徒によってイメージが違うため，多様なアプローチがあればあるほど，伝わる生徒が多い。自分たちの目標は何かを，自分たちで考えることが大切。集団が小さくなるほど，自分のアイデアが生まれやすい。練習しながら，課題や目的を見つめ直すことも必要。思いが強い子の意見に流される生徒もいるかもしれない。音楽を頭の中で歌うことや，今回の国語での歌詞の読み取り等，音楽の時間以外でもイメージできる時間を作る。目的に向かってどう練習したか，練習方法を共有する。いかに生徒を観察できているかがカギ。今まで教える授業が中心だったのは，生徒が早く技能を得やすいのと，音楽の時間が少ないから。体を動かしながら学ぶ。音楽は体で感じた方が，伝わりやすい。

気付いたこと，感じたことの原因が分かると，次もできるかも。自分で考えたことを音楽に置き換え，歌い合わせてくことが大事。多様な生徒に合う授業モデルに期待。